

# 桐

通算125号  
no.27

November 2013

## kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌

学校法人 目白学園

目白大学大学院

目白大学

目白大学短期大学部

目白研心中学校・高等学校



*Special Issue1*

目白大学短期大学部  
創立50周年記念対談  
佐藤弘毅学長×野口玖美子校友会会長

*Special Issue2*

ハクシオンProject  
目白大学CMグランプリ2013  
創立20周年記念講演会

輝く目白の星

岩井研策 さん

【人間学部心理カウンセリング学科 平成23年3月卒業】

ラオスに学校を建てて  
いま、思うこと。

# 佐藤弘毅 × 野口玖美子

学長

校友会会長

目白大学短期大学部創立50周年を記念し、佐藤弘毅学長と野口玖美子校友会会長による特別対談を行いました。

校友会は昭和40年に発足した目白大学短期大学部の同窓会。

歴史を物語る「ゆかりの品」を前に、短期大学部の歩みと、今後についてお話しいただきました。

## 小さな学校が示した 大きな決意

**野口** (学生募集ポスターを見て) これは懐かしいですね。写っているのはクラスメイトです。

**佐藤** 創立当初は、学生数40名ほどの小さな短期大学でしたね。幼稚園から大学までを備えた学園に育てたいというのが創立者の思いでしたから、短期大学の創立は、夢の実現に欠かせない一歩でした。この時期、日本の教育は大きな転換期を迎えていて、女性の大学進学がやっと受け入れられるようになってきたわけです。

**野口** 女性は高校を卒業したら花嫁修業をして結婚し家庭に入る時代でしたね。当時、一般的だった他大学の家政系の学科は、花嫁修業の延長線というイメージでしたが、目白学園女子短期大学(現在の目白大学短期大学部)が新設したのは生活科学科。そのネーミングからも新しさを感じました。

**佐藤** 当時の学科名は、とても画期的だったんですよ。英文科ではなく英語英文科、国文科ではなく国語国文科。その学科で学ぶ言語の名前も付して、実社会や実生活で

活かせる学問を教える決意を示したんですよ。生活科学科も、新しい時代の女性を育成しようという思いがあったのは間違いありません。これを考えた先輩方には敬服します。

## 校友会が支えた 学園の半世紀

**佐藤** 野口さんが校友会の会長に就任してから長いお付き合いですよ。校友会は、学内の教職員が気づかない学生生活の細やかな部分をサポートしてくれました。たとえば、卒業式で身につける袴の着付け指導もそうです。そして『桐和奨学金』も校友会の発案から始まりました。今では、短期大学、大学を問わず先輩から後輩へと引き継がれる、なくてはならない基金となっています。校友会なしに、この半世紀の学園の発展は語ることはできません。

**野口** すべては「後輩たちのため」という思いですよ。

**佐藤** この50年は激動の時代で、短期大学や大学のあり方、人々の意識や価値観も大きく変化したと思います。今では、高校

生の過半数が大学進学をして、女性の就職も当たり前。このような時代に短期大学はどうあるべきかを考えないといけないと思っています。野口さんは、今の目白大学短期大学部をどのように思いますか？

**野口** 製菓学科やビジネス社会学科が新しくできて、私たちのころとは様変わりをした印象を受けます。これからも時代に合わせ変わっていくでしょうね。

## 女性のあるべき姿を 人間のあるべき姿を

**佐藤** 目白学園には、中学・高校、短期大学部、4年制大学、大学院があって、今は4年制大学の規模が一番大きくなっています。けれども、これだけ発展できたのは、学園の重要な時期に短期大学があったから。現在16学科に拡大している4年制大学は、短期大学のピーク時の受験者数を未だに超えることができません。4年制大学を併設していない短期大学だけでいえば、受験者数全国1位という歴史もあるんです。学園の皆さんは、短期大学部のそういった歩みにも目を向けなければいけないね。

野口玖美子  
校友会会長

佐藤弘毅  
第5代学長



## 目白大学短期大学部50周年記念イベント開催 | 記念式典と植樹式

7月24日(水)、記念樹の「植樹式」を開催した。記念樹として選定されたのは「自然への愛」「持続性」という花言葉を持ち、つぼみの先が必ず北を向くため「方向性を示す植物」と呼ばれているモクレン。佐藤学長による短大生へのエールと校友会野口会長によるお祝いの言葉のあと、新宿キャンパスの中庭に植樹された。また、9月28日(土)には、「目白大学短期大学部創立50周年記念式典」を挙げる。大学併設前の卒業生から歴代教職員、在学生など多くの関係者が出席した。会場の佐藤重遠記念館では、昔の校舎で使用されていた校章入り窓ガラスなどゆかりの品を展示。そのほかにも新調された短期大学部大学旗のお披露目やJAZZコンサート、祝賀会など、一日を通しキャンパスはお祝いムードに包まれた。



植樹を行った佐藤学長と野口校友会会長

創立期の学生募集ポスター、入学案内、募集要項

**野口** 私は、当時の目白学園女子短期大学の「女子」という文字に憧れて入学したんです。女子教育は、今でも、今だからこそ重要性を増しているはずです。女性のあるべき姿を教えてくれる、そんな短期大学であり続けてほしいと思います。

**佐藤** やはり大切なのは建学の理念で、人間としてどうあるべきかということをも3文字で表す『主・師・親』の精神は、社会がどう変わろうと守り抜かなければならないと思っています。しかし同時に、教育は時代の流れや人々の思いをしなやかに取り入れていかななくてはならない。今後も大切なものを守りつつ、変えるべきものは勇気を持って変えていくことになりませんが、温かく見守っていただきたいですね。

**野口** もちろんです。今の幸せがあるのは目白学園女子短期大学のおかげです。人生の岐路に立つたびにしっかりと自分の足で歩くことができたのは、ここで学んだからこそ。ここで過ごした時間は、私にとって宝物だと思っています。

**佐藤** そう言っていただける卒業生がいるというのは、本当に幸せなことです。ありがとうございます。



### さらなる発展を目指して

現在の目白大学短期大学部は、創立当時の生活科学科、日本で唯一の製菓学科、職業人としての汎用的能力を獲得できるビジネス社会学科の3学科で構成されています。2年という短期間で社会人、職業人としての教養と知識・技能を修得できる点に短期高等教育の存在価値があります。それを具現化した「親身な教育」「資格取得支援」「就職へのきめ細かなサポート」や、併設大学との交流が盛んなことが、目白大学短期大学部の強みであり、魅力でもあります。しかし、短期大学の未来は決して平たんなものではありません。少子化、高学歴化の中で、その特徴を存分に活かしていかなければ存続も難しい状況であると言えるでしょう。地域との連携、企業とのコラボレーションなどを通じてのサービスラーニング、自ら学ぶアクティブラーニングなど、実践力のつく教育を目指し今後も発展を遂げていきたいと思っています。



目白大学短期大学部副学長  
油谷純子  
YUTANI Sumiko

### 目白大学短期大学部の歴史

- 1963(昭和38)年：目白学園女子短期大学を創立し、英語英文科を設置
- 1964(昭和39)年：国語国文科、生活科学科を設置
- 2000(平成12)年：校名を「目白大学短期大学部」に変更。英語英文科と国語国文科を改組転換し、言語表現学科<sup>※1</sup>に改める
- 2003(平成15)年：子ども学科<sup>※2</sup>設置
- 2007(平成19)年：製菓学科を設置。生活科学科に介護福祉士養成課程(生活福祉コース<sup>※3</sup>)を設置
- 2010(平成22)年：ビジネス社会学科を設置
- 2013(平成25)年：創立50周年

※1 言語表現学科は2003(平成15)年に募集停止

※2 目白大学人間学部子ども学科を設置するに伴い、2007(平成19)年に募集停止

※3 現在の介護福祉コース

# Special Issue2



来年、創立20周年を迎える目白大学の魅力と、キャンパスで自主的にアクションを起こしている学生たちを紹介する『ハクシヨ(ハチアクション)Project』。特別サイトの設置など進行中の企画に加え、今年の夏は学生参加型企画『目白大学CMグランプリ2013』や各分野で活躍されている方の講演会を行いました。

※プロジェクトの詳細・CMグランプリ受賞作品は<http://mejiro20th.jp>からご覧いただけます



## 目白大学CMグランプリ2013



目白大学創立20周年の記念イベント『目白大学CMグランプリ2013』。その表彰式を7月18日(木)に行いました。4月から6月にかけて、在学生を対象に30秒以内のCM作品を募集。学内外の審査員によって、「仲間・

先生部門」「キャンパス部門」の各部門でグランプリ、準グランプリ、特別賞が選出されました。また表彰式には、ゲスト審査員を務めたCMプランナーの福里真一さんも参加。CMの企画術についてを講演しました。



## 創立20周年記念講演会

主催：地域社会学科  
【アルピニスト野口健講演会】  
平成25年6月6日(木)

あきらめないこと、それが冒険だ  
—富士山から日本を変える—

野口 健 さん  
NOGUCHI Ken

25歳でエベレスト登頂に成功。7大陸最高峰世界最年少登頂記録を樹立。エベレストや富士山で清掃登山を行い、環境問題に取り組んでいる。

「日本人はヒマラヤをマウント・フジにする気か」。国際登山隊としてエベレストに登っていた私に、ある欧米人がそう言い放ちました。事実、エベレストには日本人の手で捨てられたゴミが多かった。非常にショックでした。けれど、彼の言葉に私はもう一つ衝撃を受けたんです。私にとっては美しい存在であった富士山が、世界では汚い山と認識されていること。富士山は、汚かったんです。エベレストや富士山の清掃活動はそうして始まりました。そこで何が起きているのかを自分自身の目で確認し、背負う。あらゆる活動のスタートはここにあると思います。皆さんも「これを成し遂げたい」と思ったら、まず現場へ足を運び、現場を自分の目で見てください。



[グランプリ]  
仲間・先生  
部門

寺田千紗 さん  
TERADA Chisa  
保健医療学部  
理学療法学科 4年



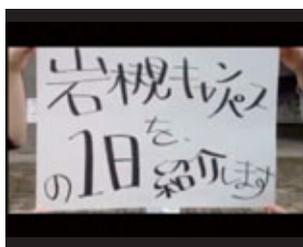
2つのキャンパスがあって目白大学。岩槻キャンパスの魅力は新宿に、新宿キャンパスの魅力は岩槻に。映像でキャンパスをつなげたいと考え応募しました。医療系キャンパスの特色を出すために、学内の施設を網羅できるよう試行錯誤。理学療法学科の先生や仲間の温かさを伝えることも目標の一つにしました。映像制作は全員が未経験で、せっかくのアイデアも形にできないという悔しい思いをしました。グランプリに選ばれたときは本当に驚きましたね。実習中の友人たちが戻ってきたら、皆で喜び合います。

[グランプリ]  
キャンパス  
部門

東畑裕貴 さん  
TOHATA Yuki  
社会学部  
メディア表現学科 3年



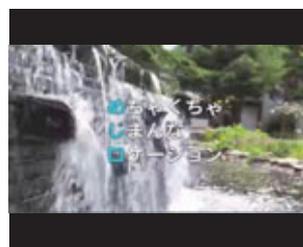
緑豊かな新宿キャンパスの魅力が伝わるよう、街の空からキャンパスの空へ画面が自然に移り変わる工夫をして撮影しました。また、「CM作品」ですから、目白大学の名前とロゴマークを画面に入れる必要があると考えましたが、ただ表示するだけではつまらない。テレビCMでサウンドロゴを目にしたときに「これだ!」とひらめき、楕円形のシンボルマークをコロコロ転がすアイデアを思いつきました。メディア表現学科で学んだ3年間の集大成としてCMを作り、受賞できたことは本当に嬉しく思います。



作品名は「ありふれたNICHIJYO ~ Mejiro in my soul ~」



岩槻キャンパスの日常を魅力的に伝えられるよう制作に励みました



作品名は「『め・じ・ろ』なキャンパス!」。3年間過ごした自慢の場所です



苦勞して作ったサウンドロゴ。評価していただけて、本当に嬉しいです

主催：メディア表現学科

【CMプランナー福里真一講演会】平成25年7月18日(木)

人は、自分にできることしか、できない  
—あるCMプランナーの企画術—

福里真一 さん FUKUSATO Shinichi

CMプランナー・コピーライター。ジョージア『明日があるさ』やサントリーBOSS『宇宙人ジョージズ』、トヨタ自動車『こども店長』などを企画。

自分が作ってきた500本を超えるCMは、思い返すとどれも私がかこれまで生活してきた経験の中から生まれたものばかり。『宇宙人ジョージズ』だって例外じゃない。日々の暮らしを作品にどのように活かすのかが発想のすべてなんです。そしてそれは、CM作りに限らないと思っています。人生や経験の中ではぐくまれてきた自分の性格は、変えることができません。人は結局、自分にできることしかできない自分にしかたれない。だからこそ、自分にできることは何かを理解することが、どのような場面でも大切だと思います。



富士山の世界文化遺産登録や2020年東京五輪開催決定など、絶好のタイミングで行われた2つの講演会に、多くの学生や一般来場者が参加しました。

主催：保健医療学部

【スポーツコメンテーター為末大講演会】

平成25年9月19日(木)

ハードルを越える

為末大 さん  
TAMESUE Dai

スポーツコメンテーター、株式会社R.project取締役。シドニー、アテネ、北京と五輪3大会連続で出場。男子400メートルハードル日本記録保持者。

失敗は存在しない。本当の敗北は行動しないこと。私はそう思っています。私にとっての大きな挫折は2000年のシドニー五輪での転倒でした。原因は強風でハードル間の歩数が乱れたことと、場の雰囲気に圧倒され予選の段階で全力を出そうと力んでしまったこと。要するに経験不足だったんです。これを機に視点を国内から世界へと移し、2001年の世界陸上では銅メダルを獲得。テレビの報道では「シドニーでの苦い経験を活かした」なんて言われることもあります。結果としては「失敗」と「成功」があるけれども、今、自分がどう生きているかによって、その2つがもつ意味は変わっていくもの。前向きに「可能性」を見つめることが大事なんです。



## 中学校・高校

» 2013.5.7

### 学習支援センターがオープン

**今** 年度より学習支援センターがオープンした。支援センターには中学生～センター試験レベルまでの単元別映像とレベル別プリントがあり、自分で計画を立て予習・復習をどんどん進めることができる。このプログラムは希望制だが、クラブ活動終了後の時間帯はほぼ満席状態で、生徒の意識の高さがうかがえる。また、週3回朝テストを実施(中1～高2必修)し、その日のうちに返却。不合格者は再テスト、さらに不合格の場合にはチューターによる指導を行う。高3生には大学受験映像講座や個別指導(有料)も実施し、難関大学合格を目指す生徒を全面的にバックアップしている。



難関突破をしっかり応援

» 2013.7.3

### ハーバード大学の学生との交流授業



**高** 校2年生英語選抜クラスの授業の中で、ハーバード大学の学生3名との交流授業を実施した。現在彼らは東京大学や経済産業研究所でインターンとして研究をしており、その一環で来校。生徒はグループに分かれて、アメリカの大学への入学方法、クラブ活動の様子、ハーバード大学キャンパスについての話を耳を傾けた。質疑応答では、ハーバード大学での専攻やキャンパスライフについて多数の質問が挙がり、生徒たちにとって海外の文化に触れあうよい機会となった。



ハーバード大学キャンパスの説明

» 2013.7.28

### 第14回目白研心遺跡フェスタ

**目** 白学園遺跡は縄文・弥生～奈良時代にかけての住居跡や土器・石器・窯の跡などが検出される遺跡で、その目白学園遺跡を含む落合遺跡は都内でも有数の規模を誇る。本校の敷地内にあるこの遺跡の普及・公開を目的とした『目白研心遺跡フェスタ』は、今年で14回目。体験コーナーや遺跡の解説、講演会などを実施し、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができる。今年は例年にも増して多くの方が来場し、皆思い思いに「身近なまちの遺跡」を満喫していた。



(左) 自分で手で粘土をこね、土器作りを体験 (上) 作った土器は七輪で焼いて完成

## 大学・短期大学部・大学院

» 2013.6.13-8.14

### 生活科学科の学生が東武百貨店池袋店のビューティーマニューフェアに参加

**東** 武百貨店池袋店のレストラン街スパイスで、「食べる人は、美しい。ビューティーマニューフェア」が実施された。レストラン街42店舗と本学を含む5大学がコラボレーションしたこの企画で、短期大学部生活科学科の学生は8店舗と協力してメニューを考案。色彩豊かな夏野菜をテーマに、『彩野菜のグリーンパスタ～枝豆ペースト～』や『夏風～夏野菜の天ぷらいくらおろしそば～』などを創作した。実際にプロの料理人とメニューの打ち合わせや試作、栄養計算をするなど、大変貴重な経験になった。



抗酸化作用をもつビタミンを多く含む夏野菜をふんだんに使った、料理の数々



目白研心中学校・高等学校  
教諭 福井延幸  
FUKUI Nobuyuki

## 遺跡と目白学園の意外な関係

**Q** 新宿という都心の「まち」に遺跡があるのはどうして?

**A** 目白学園の周辺は人々が好んで暮らす環境が整っていました。人間が生きていく上で不可欠な水と太陽に恵まれていたということなんですね。水は妙正寺川の流れを利用しました。しかしあまりに川に近いと氾濫した時に流されてしまうので、安全な高台の上に暮らしました。遺跡が残っている理由としては、江戸時代の古地図を見ると御霊神社の周囲は未開墾の山林であったことが分かります。大正の頃まで手つかずだったようです。大正末期以降、「目白文化村」に代表されるように開発が進む地域ですが、それまでに大きく開墾されなかったのが理由の一つですね。



学園周辺には人々の暮らしに欠かせない河川と高台がありました

**Q** 周辺の方にとって「まちの遺跡」って?

**A** 地域の『おちあいカルタマップ』にも「縄文の／家も復元／落合遺跡」とあり、学園内にあった復元竪穴住居や遺跡が広く地域に親しまれていたことが分かります。近隣の小学校や中学校にも時間の許す限り教員が足を運び、遺跡の説明会などを実施してきました。これらを発展させ、広く遺跡の普及・公開を目指したものとして、2000年から『目白研心遺跡フェスタ』を開催しています。活用してこそその遺跡です。毎年夏のフェスタは、地域を中心に老若男女たくさんの方が楽しみにしてくれています。この活動が学校と地域の結びつきをより深めるきっかけとなり、地域文化の一つの核となればと思います。



火起こし体験。今年もたくさん火がつけました

▶▶ 2013.07.10/07.19

## 平成25年度

### 『SPISチャレンジ制度』企画の認定



ユニークな企画4件を認定

**学** 生たちに、夢の実現にチャレンジしてもらおうと活動資金の一部を大学がサポートする制度『SPIS(スパイス)』。採択された企画団体へ向けて、新宿キャンパスでは7月10日(水)に表彰式が、岩槻キャンパスでは19日(金)に認定式が行われた。応募条件は、趣味的なものに終始するのではなく地域に貢献できるような社会性の高いチャレンジであること。本年度は、それぞれのキャンパスから2件ずつ、合計4件の企画(下記参照)が認定された。

本年度は、それぞれのキャンパスから2件ずつ、合計4件の企画(下記参照)が認定された。

	企画	概要
新宿キャンパス	留学生と市民を結ぶ『第3回 お茶の里 日韓文化体験 & ホームステイ』	留学生は市民から茶道などの日本文化を学び、韓国語学科の学生と留学生は市民に対して、韓国文化を紹介。
	Re;Cycle ~ペットボトルラベルからステンドグラスへ~	学内で回収したペットボトルのラベルを利用し、入院中の患者さんと一緒に、ステンドグラスを作成。
岩槻キャンパス	流しそうめん	流しそうめんを通して、OSCE(オスキー:客観的臨床能力試験)で協力いただいている地域の方々へ感謝の意を伝える。
	肢体不自由の子どもが遊べるおもちゃをつくろう!	肢体不自由の子ども遊びとして、スイッチを利用した玩具や電子絵本を作成。

▶▶ 2013.7.25

## 韓国・昌信(チャンシン)大学校との協定書調印式を挙行



**協** 定校への2年以上の留学で、両大学の学位を取得できる「二重学位(デュアル・ディグリー)」制度。外国語学部韓国語学科と昌信大学校は以前からこの協定を締結していたが、昌信大学校の改編に際し、改めて協定を結び直した。この日、昌信大学校からは鄭台容(チョン テヨン)総長、成在杓(ソン ジェビョ)教務処長、李相振(イサンジン)学生処長の3名が来学。本学に留学中の交換留学生と韓国語学科の学生を交えての歓談や学内見学などをされた後、調印式を挙行了。終始なごやかな雰囲気の中、今後の両国の発展をお互いに願いながら絆を強めた式となった。

一人でも多くの子どもたちに未来を描ける場所を。

# ラオスに学校を建てて いま、思うこと。



電気がない、ガスがない。トイレのある家すら珍しい。

ラオス北部のそんな小さな村に小学校が生まれたのは平成24年9月のことでした。

東南アジアの子どもたちに学校を贈る活動を推し進めたのは岩井研策さん。

「実現するかどうか分からない無謀な挑戦だった」と振り返る岩井さんに  
学校建設をめぐる思いを聞きました。



岩井研策 さん

IWAI Kensaku

新宿区立 子ども総合センター勤務  
人間学部心理カウンセリング学科 平成23年3月卒業



## この国に、学校を建てたいと思った

「発展途上国の子どもたちの現実と向き合いたい」。そんな思いを抑えられず、大学3年次に東南アジアをめぐる旅に出ました。特に惹かれたのは、ラオスの人々や土地、文化。子どもたちの目は、未来への希望にあふれていました。なのに、ラオスには学校すらない地域が多くあったんです。「少しでも自分に出来ることはないだろうか」と考え、学校建設の活動を始めたわけです。最初はノウハウも何も分からず文字通り手探り状態。まずは、メンバーを募りNGOを立ち上げました。広報活動や資金集めを進めながら、ラオスの駐日大使にも直談判。さまざまな人脈を探り、ラオスで教育活動に取り組んでいる人と出会って、協力していただけることになりました。現地の人々からは労働力の提供を受け、ハッカー村という場所に学校建設が決まったのは、大学の卒業式の直前のことでした。

## 子どもたちのためになったと、信じている

開校式に参加し、完成した校舎と子ども達の笑顔を目の当たりにしたとき、心から「やってよかった」という気持ちがあふれてきました。学校を建てるといことは、その地域社会全体の伝統や文化、生活習慣に関わることです。本当に村のためになったかどうかは、時間が経たないと分かりません。しかし、子どもたちの未来に教育は不可欠なものです。ハッカー村の子どもたちに教育の場を作れたことは、彼らの明るい未来につながるのだと信じています。私は現在、新宿区立子ども総合センターで、児童指導ワーカーとして地域の子供たちをさまざまな面からサポートしています。子どもたちが安心して生活できる場所、未来を描ける場所を作り、子どもたちの笑顔を増やしていきたいという気持ちは、学校建設を目指したころから変わることはありません。これからもこの思いを忘れずに、子どもたちと向き合っていきたいです。



念願の開校の日。待ちこがれた子どもたちと一緒に